

## 平成27年度第二回森林環境保全基金運営委員会 会議要旨

開催日時 平成27年11月6日(金) 9時30分～11時30分  
開催場所 高知会館 3階「平安」  
参加者 (委員)  
堀澤栄委員長、松本美香副委員長、岡村好文委員、門田芳穂委員、  
川村幸司委員、川村純史委員、時久恵子委員、森本正延委員  
※欠席委員 有光尚委員、林須賀委員  
(事務局：高知県林業環境政策課)  
上岡課長、田渕課長補佐(木の文化担当)、福田主幹、中越技師  
(事業担当課)  
鳥獣対策課：門脇チーフ、宮崎主幹  
木材増産推進課：出口主任、東主幹  
木材利用推進課：大野チーフ  
環境共生課：日田チーフ、久保主幹  
高等学校課：國廣指導主事、宮川主幹  
生涯学習課：東課長補佐、川上主任社会教育主事

### 1. 林業環境政策課長挨拶

### 2. 委員長、副委員長選任

委員の互選により、委員長に堀澤氏、副委員長に松本氏が選任された。

### 3. 森林環境税事務局説明

### 4. 議事

#### 【1】平成27年度森林環境税活用事業の中間報告について

##### ～公益林保全整備事業・みどりの環境整備支援事業(木材増産推進課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明。

(委員)

公益林保全整備事業で、平成27年度目標値が327件と平成26年度実績と比べて増えている。事業費がほぼ同じなので、面積が小さい事業地が増えているのか。

(事業担当課)

要望 1 件ずつの面積が年度によって異なるので、この差が生まれている。平成 26 年度の実績が若干の不用が出たことがあり、270 くらいの件数に落ち着いた。

(委員)

要望は満たしているのか。

(事業担当課)

緊急間伐事業の中の事業には、環境税を使わせていただいている切捨間伐の公益林保全整備事業と、一般財源を充てている搬出間伐の事業がある。最近、搬出間伐に対する要望が多くなり、搬出間伐についてはちょっと足りないというお叱りを県民からいただいている。切捨間伐については、若干、不用が出るくらいなので、満たされているのではないかと思っている。

(委員)

森林組合の職員であるので、現場サイドからの話を。

昭和の終わりから平成の頭にかけて、1ha 当たりの皆伐した時の所有者への還元金は、スギでも 500 万から 800 万円。ヒノキなら 1,000 万円を超えたような時代がかつてあった。現在は 1 ha 当たり 50 万円から 80 万円となり、十分の一に落ちている。木材価格は平成元年ごろに、1 立方メートルあたり、ヒノキが 6、7 万円していたのが、今は、1 万 3 千円、1 万 4 千円程度。スギは 2、3 万円していたのが、今は 1 万 1 千円、1 万 2 千円くらいに落ちている。スギとヒノキの価格差も無くなってきている。森林所有者の方は山に対する価値を見出してない。

切捨間伐をするとどうしても負担金がある。この補助があると ha 当たり 1、2 万円の負担金で収まるので、所有者の方はたいへん助かっている。

もうひとつ、皆伐という仕事が無くなってしまった。1600 人くらいの現場技術者がいるが、昔は皆伐して、新植して、通年仕事があったが、今は夏場の雇用をどうするかで苦労している。森林所有者の方の負担金が多かったら、手入れをしてもらうように説明しても、契約をもらうことがなかなか難しいが、今はこの事業のおかげで、非常に助かっている。

### ～シカ捕獲推進事業(鳥獣対策課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明。

(委員)

シカの捕獲頭数で、くくりワナで捕えるものと銃猟で捕えるものの比率は。

(事業担当課)

狩猟期の捕獲状況では、シカの8割がワナで捕れている。イノシシは7割がワナである。

(委員)

被害集落と新規狩猟者に対してワナを配るが、最終的に捕れた頭数を比べて、効果測定のようなことをする予定か。

(事業担当課)

ワナを配布したところには、捕獲報告をもらう。新規の方が捕ったところまで、数字を押さえるかは今後判断するが、随時3年間くらいは捕獲実績を追っていきたい。

(委員)

被害額の算出方法を教えてほしい。

(事業担当課)

狩猟者や畑の所有者などが市町村に申請する有害駆除の書類に、被害額が記載されており、その金額を取りまとめたものが被害額となる。申請のあったものを目安として集計しているが、まだまだ隠れた被害も多々あると思う。

(委員)

森林林業再生プラン育成事業を実施した際に、ヨーロッパのフォレスターの話の色々聞かせてもらった。ヨーロッパではフォレスターがシカの頭数管理までやっている。国家公務員なので莫大な予算が出ている。

それを受けて日本版のフォレスターを育てるといっているが、昔は林業事務所の職員が山へ来てくれていたが、今は全くそれがない。例えば四国では徳島県、九州では沢山の県の職員が、実際に山に行き、木を切ったりしている。そういう面では高知県では、どうなのかと思う。昔は各事務所や支所がもっと多くあって、現場に行き指導をしていた。今、農業は指導員が動いてサポートしているが、そういう部門をもう少し充実させたら良いと思う。

我々が見る山の歩く範囲では、もっとシカの被害が沢山あると思う。

(委員)

森林所有者の立場から言わせてもらうと、農業は、今年ネギが食べられたから、来年は

別の野菜を植えて、育てることができる。しかし、林業は、スギヒノキは、今年食害されたら、それが主伐期まで末代続く。グラフには、毎年の農林被害の金額等がでていたが、あの数値は氷山の一角と思う。

実際は、10年前にかじられた木はますます中に腐れが入ってくる。先ほど、森本委員から木材価格が5分の1から10分の1になったと説明があった。長伐期に持っていく、間伐しながら百年の材を作る。百年経った時一番下の部材の大事な元玉が、2mも3mも大事な芯へ腐れが入っている。自分も狩猟をやっていた時には、そのことを県に話したことがある。元腐りは50年も100年も経ってくると大きな問題となる。

四万十川支流の黒尊という集落で、昔営林署があったところに熊の皮はぎがあった。伐期になり木を伐ったところ、木の表面は皮が巻き込んできれいに見えても、材として使えない。農業被害は囲えばある程度防げるが、山は全体を囲うわけにはいかない。

(事業担当課)

林業被害の把握は難しいと思う。林業事務所は、造林検査の時などに被害を見つければ調査をし、被害実態を確認していくとのことだが、被害の金額を出すことは難しい。今のところは、有害捕獲の申請を元に、被害額を算定している。

被害があることは重々承知しており、捕獲は緩めることなく進めていきたい。

### ～希少野生動植物保護対策事業(環境共生課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明。

(委員)

今年出来なかった箇所は、来年の計画に入れるのか。

(事業担当課)

はい。

### ～環境学習推進事業(生涯学習課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明。

(委員)

学生が卒論で森林体験の予算の使われ方を調べている。バス代などの移動費が予算の大

半を占めるが、この取組みはどのような予算配分で実施しているのか。

(事業担当課)

ほとんどが謝金である。講師の移動費は旅費として1人あたり3000円計上している。消耗品費は年間通して2万円とかなり少額である。子ども達を連れていくバス代は計上していない。学校などに赴き実施するため安価となっている。本当は逆に子ども達が森へ行ったりする方がよいと思うが、そうなると40人の子どもが行きたいとなるとバス代だけで往復20万円と多額になる。今年1年目なので、講師の先生に来ていただき、身近でできる、森林に行かなくても、木の良さを味わえるということをやっている。来年度は消耗品費などを少し増やし活動の幅を広げられたらと考えている。

(委員)

小学校や中学校が中心であれば、多種多様な校内林が存在する。多種多様な林型がある中で、それを活かすインストラクターの教育を、あらかじめ組まれていると、もっと充実する。バス代に多額な経費がかかると一部では非常に無駄だと思う。限られた学校内でも楽しめる森林環境教育を模索されたいと思う。

(事業担当課)

梶原町で、近くの神社でネイチャーゲームをしようとしたが、前日の雨で地面がぬかるみ、仕方なく体育館で実施したときがあった。私も近くの森や林を使って実施できたら一番理想的だと思う。

(委員)

森林環境税の徴収率はどの程度なのか。

(事務局)

県税の収入見込みで税収を算定しているが、98～99%である。

(委員)

実績をみると26年度が少なくなっている。香美市は環境学習に学校が力を入れている。今年度、ぼくらが環境学習を教えた子どもが、空港で働いていたが、どうしても林業をやりたいということで帰ってきた。

環境というのは林業を見るときに大事なことで、徴収率にもまたつながっていくと思う。子どもたちに実際に山をみてもらおう。香美市は実際に山に行つて間伐をする。熱心にやれる所とやれない所があるとは思いますが、うまく活用していただきたい。

## ～高校生森林環境理解事業・高校生後継者育成事業(高等学校課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明。

(委員)

高校生森林環境理解事業の実施学年を教えてください。

(事業担当課)

四万十高校は、2、3年生である。高知北高校の学年は把握していない。幡多農業高校の木材加工は3年生が中心にやっている。三学期の木工は3年生がいないので、2年生がやっている。積み木の製作は三学期だけでは作れない。一学期から少しずつ実習の時間を使いながら2年生、3年生が削り出しなどの加工に取り組んでいる。保育園へは2年生が三学期に持っていつている。

(委員)

高校生後継者育成事業の女性の割合はどの程度か。

(事業担当課)

学校から男女割りの報告が来ていない。高知農業高校は9名車両系を受講しており、そのうち女性が2人いる。他の学校は男女別の報告は上がっていないので、実績の時に報告させてもらいたい。

(森員)

昨日幡多農業高校が香美森林組合に来て、今日は馬路に行っているが女性が、3名いた。

(委員)

高校生後継者育成事業は、高校生がしっかり学習し、きっちり講習を受けて、仕事として発展していけるものである。当事業は、高校生の就職につながっていると思う。森林環境税があつてよかった。

(事業担当課)

可搬式のチェーンソーや草刈機の特別教育は、2年次で行うようにしている。資格をとると、2年生の後半から3年生にかけて山でチェーンソーや草刈り機が使える。車両系は18歳にならないと資格が取れないので、3年生の夏休みに行かせていただいている。

学校側もチェーンソーや草刈機の使い方は教えるが、資格を取ることが生徒達の意欲や仕事に対する責任感、危険な物をいかに安全に使うかという意識高揚にもつながっている。

## ～木の香るまちづくり推進事業(木材利用推進課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明。

特に質問なし。

## ～山の学習支援事業(林業環境政策課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明。

(委員)

学校の規模により補助金額の上限が異なるが、どの規模の学校が多いか。

(事業担当課)

50人未満の学校が多い。その次は50人以上から100人未満となる。

(委員)

具体例を教えてください。

(事業担当課)

地域性もあり、まちまちである。当方では、実際に森林や森林公園に行き、体験活動していただくことを勧めている。

遠足を利用して、甫喜ヶ峰森林公園に行ったり、情報交流館で木工体験をする学校が地域に1校ぐらいある。安芸の方では炭焼きをやっている。川や海が近い学校は、川や海の学習を関連付け、山から栄養が来ている流れで、事業計画を作っている所が多い。

(委員)

この事業のおかげで学校の授業が充実している。当事業がなくなったら、体験活動がなくなることがはっきりしている。だから大事な事業だと思う。

小学校はわりと実施されているが、中学校の総合学習での体験活動があまり充実していなかった。これからの指導要領では、体験的な学習をする方向にあるので、学力向上と体験活動の総合的な学習時間を充実させていくために、小中学校課の方で両方充実して実施する事業を打ち立て、いくつかのモデル校がずっと実施している。

中学校の総合学習が、キャリア教育の人を呼んで話を聞くことが結構多かったが、本当にやり始めると、子どもたちが地域の学習に歩み出す。そうなる则该事業が欲しくなる。

中学校は外に出ていく機会が少ないので、どんどん増えるかというところでもないかもしれないが、活用したくなる学校はあると思う。

バス代も使えるので、子どもたちが活動を進めていく上で大きい。そのままにしておくとも山に行くこともないが、香美市の学校は三嶺や色々な所に行って、先ほども話にあった間伐をしたり、木を守るためのネットを張ったり、植樹をしたり、たくさんの活動をしているので、これを重視している。

生涯学習課の出前学習も大事だが、子ども達を現地へ出向かせることがとても大事である。

提出前の計画書を見る機会があるが、単学期のものもあるが、本来は総合学習なので、一年間の流れを踏まえた学習になっているのが一番確かなものだと思う。流れの中に、山と関係ないことが計画に入っているので、カットしてもらうこともある。山の地域で、この事業を使うことは非常に重要なことである。

(事業担当課)

中学校で体験学習をもっと充実させていく方針は、香美市独自のものなのか。それとも、もっと広い範囲で、そのようなことをやる動きがあるのか、教えていただきたい。

(委員)

元々、学習指導要領の中に体験しなければならないということが明記されている。総合的な学習の時間は、先生が教えるだけでなく、課題を決め、チャレンジして課題解決をしていく学習である。そこは体験を重視していくことがきちんと述べられている。

環境や森林にテーマをおいた学校では、森林に行ったり、現場に行き仕事を見せてもらったりして、きちんと体験を通じながら進めていく。学校によって、森林だけでなく、国際理解などテーマを色々設定できるので、森林をテーマにもった学級や学校が申し込んでくるので、数的には、少し増える程度だと思う。

### ～森づくりへの理解と参加を促す広報事業・こうち山の日推進事業(林業環境政策課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明。

特に質問なし。



～運営委員会等開催費・森林保全作業安全研修(林業環境政策課)～

(事業担当課) 資料に基づき説明。

特に質問なし。

**【2】平成26年度森林環境税活用事業の総合評価について**

(事務局) 資料に基づき説明。

特に質問がなく、全員一致で案のとおり採択された。